



突撃! リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.58 JA岐阜厚生連 東濃厚生病院 医療安全対策室

医療安全管理者 看護師長 渡邊賀津広 様



【病院外観】



【渡邊様】

■病院の沿革と概要

昭和 13 年：開設

平成 15 年：現地に新築し、昭和病院から東濃厚生病院に改称

平成 22 年：医療機能評価機構認定 (Ver.6.0)

岐阜県東濃地方の瑞浪市に位置し、地域の中核病院として一般医療から救急医療・予防医療まで幅広く機能している総合病院です。

病床数 270 床

■理念・基本方針

病院理念

「歩みいる者にやすらぎを、去りゆく人に幸せを」

私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します。

1. 組織体制と医療安全管理者の業務について

—医療安全に関する組織体制と医療安全管理者（渡邊様）の主な業務内容をお聞かせください。

院内で組織横断的に医療安全推進を行う部門として、院長直下に私が所属する医療安全対策室があります。

医療安全管理者として、私の主な業務は以下の通りです。

- ・インシデント、アクシデントレポートのチェックと分析
- ・インシデント、アクシデント対策のアドバイス
- ・医療事故発生時・発生後の対応
- ・医療安全に関するマニュアル類の整備

2. 転倒・転落事例の収集と対策について

—事例報告から防止策の実施までの仕組みをお聞かせ下さい。

事例情報の収集については、インシデント、アクシデントレポートで報告する仕組みです。

事例発生から報告までにタイムラグが発生するケースもあるので、看護部では毎朝、管理当直・夜勤者が看護部長室に看護報告を行う際に、勤務中に発生したアクシデント・転倒転落事例も報告する仕組みを採っています。

また、インシデント、アクシデントの発生後は、必ず該当部署でカンファレンスを実施し、対策を協議しています。このカンファレンスには私もなるべく参加するようにしています。

転倒転落対策については、その患者さんだけに対する対策と、他の患者さんにも適用（一般化）できるものを検討するという視点で行っています。

—近年の転倒・転落事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

ここ5年間の事例発生件数を見ると、年ごとに増えたり減ったりのジグザグの結果が出ています。

この結果については、これという原因はまだ見つかっていませんが、例えば神経内科の患者さんの中には、「転倒やむなし」という方もみえたり、認知症の入院患者さんの有無が全体的な件数に影響している可能性はあると思います。今後も高齢化、認知症患者さんの増加にともない、増える傾向にあると思っています。

—その他、事故防止のために特にされている活動はございますか？

月に1度実施している医療安全ラウンドでは、目的の1つとして「転倒・転落防止対策」があり、看護計画の実施状況や離床センサーの適切な運用などをチェックしており、必要があれば看護計画の見直しなどを求めています。

3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

—医療安全に関して、過去どのような研修を実施されましたか？

昨年は、「Team STEPPS※1」と「SBAR※2の報告システム」についてグループワークを取り入れた研修会を実施しました。

また、後期には東京海上日動メディカルサービス株式会社から講師を招いて医療事故の初期対応や職員間のコミュニケーションに関する研修会を実施しました。

※1 **Team STEPPS** (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety : 医療のパフォーマンスと患者安全を高めるためにチームで取り組む戦略と方法)

良好なチームワークを確立し、医療行為全般のパフォーマンス（医療行為の経過から結果までの全過程の行い方）と患者さんの安全性を高めるために、米国において国防総省や航空業界などの事故対策実績を元に作成されたチーム戦略です。わが国ではあまりなじみがないが、明らかな有用性が確認され、現在では世界標準の患者安全推進ツールとなっているチームワーク改善手法を示している。

※2 **SBAR**

「Team STEPPS」のコミュニケーショントレーニングのひとつ。S.B.A.R.とは以下の要素。

S: situation 状況把握

B: background 背景理解

A: assessment 評価

R: recommendation 提案

—岐阜県厚生連や地域の病院様と医療安全に関する連携はされていますか？

—されている場合、活動内容をお聞かせ下さい。

岐阜県厚生連の7つの病院間では、以下の連携を実施しています。

- ・医療安全管理者が年に1度会合し、問題の抽出や事例の検討を行う
- ・インシデント・アクシデントに関する統計を病院ごとに本部で集計し、共有している
- ・半期ごとに各病院で3事例を選定、発表し、対策を共有する

4. 離床センサーについて

—弊社の「赤外線コール」は、どのような目的、期待で導入されましたか？

当院では、現在 31 台の離床センサーを保有しています。床に敷くタイプのセンサーが中心ですが、報知タイミングが遅く対応が遅れたり、誤作動があったりという問題があり、これをクリアできるものを探していました。

赤外線コールの導入ポイントは、①コードレスである点、②設置の融通性から、万能タイプの離床センサーとして使い勝手が良いと評価し、導入しました。

—「赤外線コール」は、どのような対象者に使用されていますか？

明確に基準を設けてはいませんが、幅広い対象者に適用できる「万能タイプの離床センサー」として運用しています。具体的には、行動パターンが読みにくく、床センサーでは対応が間に合わない、起き上がりを知らせるタイプでは誤作動が多いというケースでは、赤外線コールを適用しています。

—転倒・転落事故防止のため、今後どのような機器を導入したいとお考えですか？

離床センサーについて言うと、患者さんの次の行動を予測する機能が付いた物があれば良いなと思います。限られた人員で業務を行う中では、センサーの誤作動に対応する時間はネックになるので、より高い信頼度で離床などの特定行動を知らせてくれれば、効率的な対応ができると思います。

5. メーカーへのご要望について

スタッフが離床センサーを活用するためのヒントになる情報や応用的な使い方などを、レクチャーしてもらえると非常にありがたいですね！

—テクノスジャパンでは、「離床センサーワークショップ」と題して、離床センサーの活用方法や対象者の選び方など様々な内容で無料開催しています。ぜひご検討ください！

6. 最後に何か一言お願いします！

地域に根差した病院として、今後も病院理念“地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します”に基づき、医療安全を推進して行きたいと思います！